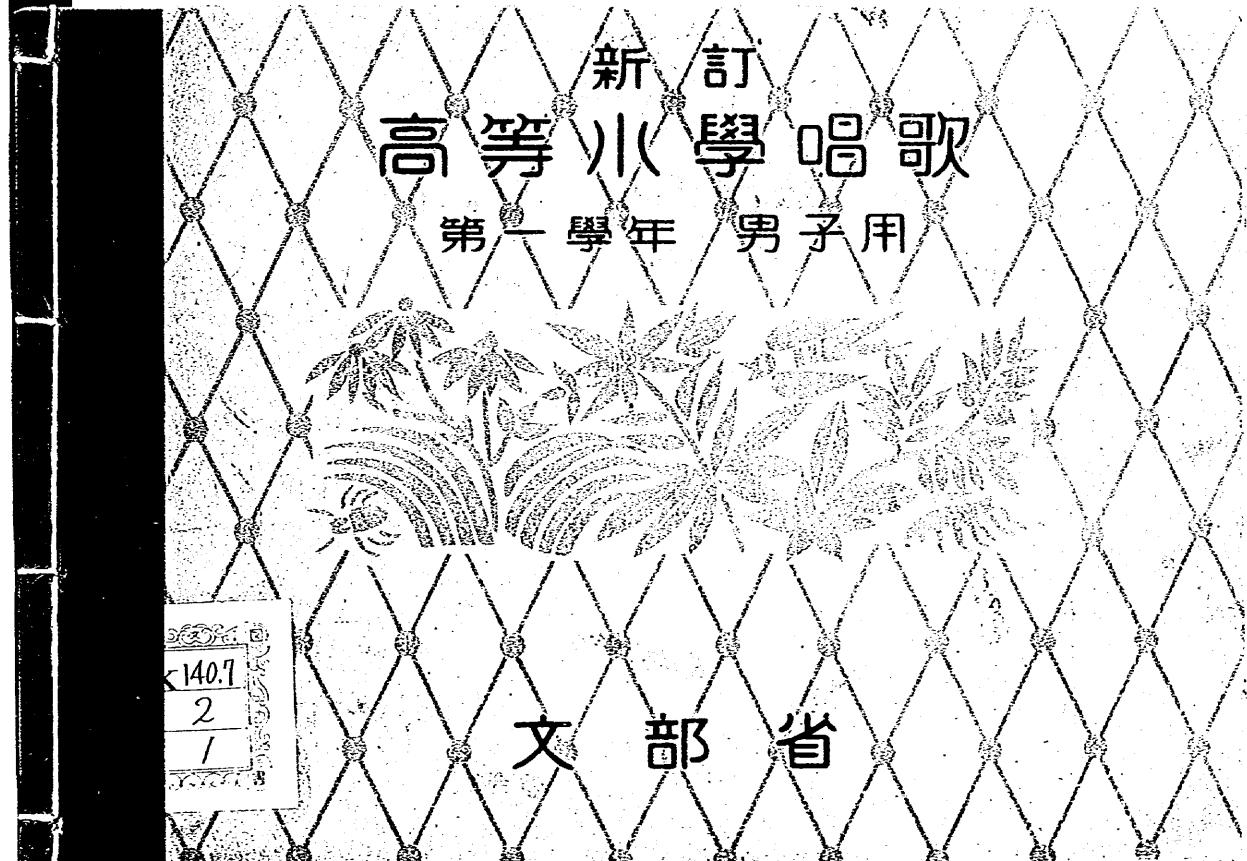


K140.7

2

1



新訂
高等小學唱歌
第一學年 男子用



文部省

研

緒 言

- 一、本書ハ、音樂教育ノ進歩ト時代ノ要求トニ鑑ミ、高等小學校唱歌科ノ教科用トシテ、新ニ編纂セルモノナリ。
- 二、本書ハ、各學年ソレゾレ男子用ト女子用トニ分チテ編纂シ、何レモ每卷二十二章トセリ。内、各十五章ハ、男子用・女子用共通ノ教材、他ノ各七章ハ、男子用・女子用ノ別ニ從ヒテ、歌詞・樂曲トモニ相異ナルモノヲ以テ充テタリ。
- 三、本書ノ歌詞及ビ樂曲ハ、歌詞ニ高等小學讀本・農村用高等小學讀本所載ノ韻文ノ一部（第一學年用「昭憲皇太后御歌」、第二學年用「夏の曉」、第三學年用「稻刈」）ヲ採用セル以外、總ベテ本省ノ新作ニ係ル。
- 四、本書ノ教材排列ハ、程度ノ難易ノミニヨラズ、一面、歌詞ニ示サレタル季節・行事ニ就キテモ考慮セリ。
- 五、本書ハ、取扱者ノ便宜ノタメ、唱歌曲ノミノ樂譜ヲ掲グタルモノト、伴奏附ノ樂譜ヲ掲グタルモノト、二種類作製セリ。但シ、後者ハ、男子用・女子用共通ノモノ、男子用・女子用各別ノモノヲ併セ掲グタルヲ以テ、各卷二十九章ヨリ成ル。

- 六、本書ノ樂曲ハ、事情ニヨリ、伴奏ヲ附セズシテ授クルモ差支ナシ。然レドモ、伴奏ヲ附スルコトニヨリテ、タダニ歌唱ニ便スルノミナラズ、ナホ歌曲ノ興趣ヲ增進セシムルコトヲ得ベシ。
- 七、唱歌曲ノミヲ掲グタルモノニ於テハ、伴奏ノ前奏・間奏・後奏ノ部分ニ對シテ、必要ナル休止符ヲ附シ、又ハ休止符ト併セテ當該箇所ノ伴奏ノ主要旋律ヲ記シ、以テ歌唱ニ便ナラシメタリ。
- 八、本書ノ唱歌曲中、重音ノ箇所ハ、事情ニヨリ、上部主要旋律ノミヲ採リ、單音唱歌トシテ課スルモ妨グナシ。其ノ際ニハ、正規ノ場合ト同一ノ伴奏ヲ附スルコトヲ得。
- 九、本書ノ樂譜ニ配當セル歌詞ノ記法ハ、概シテ舊尋常小學唱歌ニ準ゼルモ、其ノ間、ナルベク發音上ノ實際ニ適切ナラシメンタヌ、更ニ新ナル考慮ヲ加ヘタリ。
- 一〇、本書ノ樂曲ハ、概ネ中等諸學校ノ初年級並ビニ青年學校等ニ於テモ使用スルコトヲ得ベシ。

昭和十年三月

文 部 省

目 次

一 昭憲皇太后御歌	2	一一 舟にのりて	36
二 鯉 戀	4	一二 高嶺の月	40
三 風蒸る	8	一四 村時雨	42
四 野球の歌	10	一五 滿洲の野	44
五 希 望	14	一六 御代の榮(二部合唱)	48
六 梅雨晴	18	一七 冬來る	50
七 太平洋	20	一八 御裳濯川	52
八 登 山	24	一九 薩摩守	56
九 海國男子	28	二〇 雪の行軍	58
一〇 秋近し	32	二一 春の訪れ	62
一一 灯	34	二二 送別の歌(獨唱及び二部合唱)	64

一、昭憲皇后御歌

一、人知れず思ふ心のよしあしも

照らし分くらん天地の神

二、日の本のさかひ離れてゆく船に

國の光も載せてやらまし

三、神風の伊勢の内外の宮柱

ゆるぎなき世をなほ祈るかな

四、朝毎にむかふ鏡のくもりなく

あらまほしきは心なりけり

昭憲皇后御歌

鯉 橋

鯉 橋

f

vmp

v

一 ゴ グワツ ノ ソ ラ ハ ハ レ ワ タ リ も ク リ
二 ち ジ や う 一 の カ げ の を ド ハ リ モ ク リ
三 ミ ヤ コ ニ ヒ ナ ニ ニ ホ ハ ニ マ シ ロ ハ ニ
四 ひ ご ひ は あ か く ま ご こ ま ご こ ま ご こ

カ チ ア マ ゼ カ ヲ ノ ラ バ ハ カ ふ レ ベ バ ハ ル カ ふ レ ベ バ ハ ル
ア ハ レ ト セ カ ヲ ノ ラ バ ハ カ ふ レ ベ バ ハ ル カ ふ レ ベ バ ハ ル
カ チ ア マ ゼ カ ヲ ノ ラ バ ハ カ ふ レ ベ バ ハ ル カ ふ レ ベ バ ハ ル
モ に コ に ホ マ コ し ガ な コ め ラ こ ニ シ 一 一 二 に モ て ヒ を ウ こ ヲ に マ の

四

f

v

v

ア ピ レ ス し テ に ト も ブ シ チ ル ミ ク の ニ に オ ク ニ イ ヨ グ ル ル ジ タ サ ム
ヒ ヒ ヒ ヒ ボ ボ ボ ボ リ リ リ リ ニ ツ ニ ツ ニ ツ ニ ツ ノ ノ ノ ノ ノ ノ
コ ニ ゴ ニ ポ ボ ボ ボ ボ ポ ボ ボ ポ ボ ボ ポ ボ ボ ポ ボ ボ ポ ボ ボ
イ カ ウ カ キ ザ ズ カ ミ ダ マ ウ セ ニ シ れ テ テ テ テ テ テ テ

鯉 橋

五

二、鯉 軛

一、五月の空は晴れわたり、

風の蒸れば、矢車の

音もほがらに、陽を浴びて

雄雄しく泳ぐ鯉転。

日本男児の意氣見せて。

二、地上の影のをどるにも

力溢れて、ひもすがら、

口に、眼に、尾に、鰭に、

命のこもる鯉転。

日本男児の姿にて。

三、都に、鄙に、匂はしく

青葉・若葉のもゆる時、

男の子ここにも生まれぬと、

ほこるに似たる鯉転。

日本男児の數増して。

四、緋鯉はあかく、まごころを、

眞鯉まくろく、健げさを

我にしめして、この年も

望にいさむ鯉転。

日本男児はかくあれと。

風 薫る

風 薫る

J = 120

1. 一
ト リ ノ ネ シ ゲ キ ャ マ ア ヒ ノ
二 ま き ば の ひ る の し づ け き に
三 ク ハ ノ ハ ミ テ テ カ ゴ セ オ ヒ

2. 二
ア ヲ バ ワ カ バ ニ ヒ ノ ヒ カ リ
む れ を は な れ し わ か ご ま は
イ ソ ギ ノ ミ チ ヲ カ ヘ リ ュ ク

3. 三
ヲ カ ノ ム ギ バ タ ト プ テ フ 一 ノ
ひ ば り き く と や め を と ち て
ウ タ モ ホ ガ ラ ノ ハ ラ カ ラ ノ

八

風 薫る

1. 一
鳥 の 音 しげ き 山 あ ひ の
青 葉 ・ 若 葉 に 、 日 の 光 り
丘 の 麦 烟 飛 ぶ 蝶 の
白 き 鳥 に 、 風 薫る。

2. 二
牧 场 の 畫 の 静 け き に 、
群 を は な れ し 若 駒 は 、
雲 雀 さ く と や 、 眼 を と ぢ て 、
立 ち て 動 か ず 、 風 薫る。

3. 三
桑 の 葉 滿 て て 、 籠 せ お ひ 、
急 ぎ 野 路 を 役 り 行 く 、
歌 も ほ が ら の は ら か ら の
頬 に 吹 來 て 、 風 薫る。

九

野 球 の 歌

pianissimo marcato

f ヤウー クワウー ミナギール ミソラノモト
p ちんえいし づけ一き まなかにたち
mf ハクセンエガキーテ ネツキウートベ
f しよう一しやはほこら一ず はいしやもくい
p 一シノギヲケヅル一ヨ
p しんぼう一めぐら一す
p チカラヲアツメーシ
p だう一だう一あら一そ一ふ

f = 104

コウーシュノニグン クワニシユウヒトーシーク
 とうしゆのむねはせいらんこギー君一を
 テツコンイチダオトアリコクウーネヲ
 だんじのいきにかつさいはわき一た一ち

mf カタツラノミーテ *f* アツムルヒ
pp さやかにふけ一ど *p* まんちやう一こ
p カスムルタマーノ *mf* イサヲモタ
mf がう一てきなれ一ば *f* はなやぐゆふ

(non dim.)

ト一ミ一ハ トウ一シユニダシヤニ
 ゑ一な一く ふう一うをまてヒ
 カ一シ一ヤ シュレンノカヒ
 一ひ一に せんしひへ

四、野球の歌

一、陽光みなぎるみ空の下に、

鎧をけづるよ、攻守の二軍。

観衆ひとしく固睡をのみて、

集むる瞳は、投手に、打者に。

二、陣營静けき眞中に立ちて、

深謀めぐらす、投手の胸は。

青嵐梢をさやかに吹けど、

満場聲なく風雨を待てり。



三、

白線ゑがきて熱球飛べば、

力を集めし鐵棍一打、

音あり、虚空をかすむる球の

動も高しや、手練の腕

四、

勝者は誇らず、敗者も悔いず、

堂堂あらそふ男兒の意氣に、

喝采はわきたち、號笛鳴れば、

はなやぐ夕日に、戦士は歸る。

希望

$\text{♩} = 104$

元氣をこめて

4

一ミヨヤノミチノクタニミヨヤ
二みよやノミヅカニクえーだをヲミミヨヤ
三ミヨヤノレラノアシタヲミミヨヤ
四みよやコルヒのにつはんミミヨヤ

カレーハテタリトミキエガニガラ
カジサクアシドリカガキヒハラ
ナダクアシクアシドリカガキヒハラ
ナダクアシクアシドリカガキヒハラ

希望

キカウカノフーモシテケフタラシムクテ
カマレレシテキトヨキシトト
ハモエビイデスゾミニモエテ
ナアレヒケリヤカスノミニモエテ
ハモエビイデスゾミニモエテ
ナアレヒケリヤカスノミニモエテ
ハモエビイデスゾミニモエテ
ナアレヒケリヤカスノミニモエテ

五、希望

一、見よや、

野路の草に見よや、

枯れはてたりと見えながら、
昨日も、今日も、新しく
芽は萌出でぬ、

望に燃えて。

芽は萌出でぬ、

望に燃えて。

見よや、

静かに枝を見よや、

さびしく立ちし木木に、みな、

かくれし強き力もて

葉は伸いでぬ、

望に燃えて。

葉は伸いでぬ、

望に燃えて。

三、見よや、

我等の明日を見よや。

をさなくあれど、若き日に

生まれて來にし人として、

名をあげでやは、

望に燃えて。

名をあげでやは、

望に燃えて。

四、見よや、

來ん日の日本見よや。

正しく、高く、日の御旗

かざして、永久に外つ國と

手をとり行かん、

望に燃えて。

手をとり行かん、

望に燃えて。

六、梅雨晴

一、屋根に、
雀の幾日ぶりに
朝日を待ちて高らになれば、
庭の青葉を吹來る風の

清きをほめて、
窓のあけはなち、
青き空見る、清潔しさよ。

スガスガシサヨ
つちはらひみる
アヒヲキツソラミルは
二、よくも
つづきし梅雨今朝はれて、
しめりも清き夜明の庭に、
こぼれこぼれし柘榴の花を
掃きすてかねて、
手にとりあげて、
一つ二つは、土拂ひ見る。

梅雨晴

♩ = 84

梅雨晴

一
一ヤネニスズメノイクニチブリーニ
ニよくもつづきしつゆけさはれーて

アサヒヲマチテタカラニナケバ
しめりもきよきよあけのにはに

ニハノアヲバヲフキクルカゼノ
こぼれこぼれしがくろのはなを

キヨキヲホメテマドアケハナチ
はきすてかねててにとりあげて

太平洋

太平洋

mp やさしく

$\text{♩} = 112$

一ハタウ一センリヤウーヤウート
ニビたう一ばんりべうーベうーと

mf や強く

ヒガシニウネリニシニヨセ
みなみにはしりきだにさり

二〇

mp ややかく

ヒイヅルクニーノアカツキニ
ひいづるくーにーのしまかげに

mp や強く

メッタツカルテ
mf や強く

ヲヲシクウタフウミノウタ
ほがらにうだふうみのうた

f や強く

クロシホコーポートイザユカソ
なみのりこーえていざゆかん

ff ややかく

ワレラノウミヨタイヘイヤウ
われらのうみよたいへいやう

太平洋

二一

七、太平洋

一、波濤千里洋洋と

東にうねり、西に寄せ、

日出づる國の曉に、

雄しく歌ふ海の歌。

黒潮こえていざ行かん、

我等の海よ太平洋。

二

怒濤萬里渺渺と

南に走り、北に去り、

日出づる國の島陰に、

ほがらに歌ふ海の歌。

波乗りこえていざ行かん、

我等の海よ太平洋。

卷之三

登 山

二四

登山

八 登 山

一、眞夏なれども、眞冬の裝
暁寒き 小屋を出でて、
金剛杖も しばしは 肩に、
幾年くはだて、幾年願ぎし
これなる峡谷、今年われよづ。

二、朝日まだ出ず、小鳥も目ざめず、
氷の如き 溪の流

こごしき岩根、けはしき坂路、
おのれの手足の力のままに、
涉れば、登れば、武者ぶるひする。
三、たよる かんじき・アルペNSTOCK、
一足毎の 步高し。

滑るな、深きクレバス近し。
早くも起出で、やさしき聲に、
親子の雷鳥、巖角にあり。

四、お花畠の、目ざむるばかりに、
いろどり はしく きそひ喫くを、
かたみに愛でて 見上ぐる尾根に、
白きは キヤンプか、白衣の人か、
行手に珍し、偃松の海、

五、低くなりゆく 下界の山山

頂ばかり 霧の海に
島かと見えて、目路いと廣し、
思ひもよらざる方より 出でし
朝日に向かひて、鬨の聲あぐ。



海國男子

$\text{♩} = 96$

Music score for 'Sea Country Men' (海國男子) in G major. The lyrics are:

ピヤノ ff ピヤノ ff
アあアあア アあアあア
一二三四五 アあアア
サいノあウ サイノアウ
ワわワわワ ハハハハハ
レレレレレ ラララララ
カカカカカ カカカカカ
イイイイイ イイイイイ
シシシシシ シシシシシ
ククククク クククク
ダだだだダ ダだだだダ
ンンンンン ンンンンン
シシウおム キフルカ
オあかつス ホラケヅミ
ヒをハノ マホミホツ
ハねミやベ マホミホツ
イはヅじラ オム

九 海國男子

一、ああ、我等は海國男子。

幸多き島國に、

心も清く生ひ立ちて、
渚の砂に仰ぎ見る

朝焼たふとき富士の雪

二、ああ、我等は海國男子。

岩根を洗ふ潮の音も、

夢路にひびく子守歌。
幼き日より舵とりて、

海行く業を學びけり。

三、ああ、我等は海國男子。

望は翔る、海遠く。

心に抱くあこがれは、
波乗越ゆる大艦に

輝きなびく軍艦旗。

アジヤにつづく大海は、

譽も高き日本海。

かの武夫の血をくみし
我等の血潮高鳴りぬ。

五、ああ、我等は海國男子。

浦邊の住家陸ましく、
富は盡させじ、太平洋。
朝日の海に帆を張れば、
波はほがらに招くなり。

—〇、秋近し

一、庭の垣根に咲きのこる
花の向日葵いろさめて、
思ひ入るがにうつむきぬ。
はや秋近し、秋近し。

二、道のほとりの草むらに、
蟲のはたおり猪のべて、
機やおるらん鳴きいでぬ。
はや秋近し、秋近し。

三、やがて暮れゆく夕空の
星のまたたき見あぐれば、
光さやかにゆらぐなり。
はや秋近し、秋近し。

秋近し

秋近し

$\text{♩} = 92$

3

mp

ニミヤ ハチガ ノのテ カはク キとレ ネリュ ニのク サくユフ キサ一 ノヒゾ ヨララ
 ルニ ハムホ ナシシ ノヒマタタ ハオタ リリキ リイロ 口ねア 一サメベレ テバ
 モタカ ヒヤリ イオサ ルるヤ ガラカ ニンニ ウナユ ツキラ ムイグ キテナ スヌリ
 ヤヤヤ アアア キキキ チチチ カカカ シシシ アアア キキキ チチチ カカカ シシシ

V

Vmp

V

Vmp

V

Vmp

灯

♪ = 48

Fumi

ビヤノ *pp*

島 船 灯 海
の か が の 星
の 灯 と 一 向
だ。 思 つ。 か
一 タ カイ ミ ソ ラ ニ ヒ ガ ヒ ト ツ
二 と ほ い み そ ら に ひ か ひ と つ
三 ウ ミ ノ ム カフ 一 ニ ヒ ガ ヒ ト ツ

1.2. 3.

ホ シ カ ト オ モ ヘ バ マ ド ア カ リ マ
ま ど か と お も へ ば お は し さ ま
フ ネ カ ト オ モ ヘ バ シ マ ノ ヒ ダ

三四

三

島 船 灯 海
の か が の 星
の 灯 と 一 向
だ。 思 つ。 か
一 タ カイ ミ ソ ラ ニ ヒ ガ ヒ ト ツ
二 と ほ い み そ ら に ひ か ひ と つ
三 ウ ミ ノ ム カフ 一 ニ ヒ ガ ヒ ト ツ

お 窓 灯 遠
星 か が い
さ と 一 み
ま。 思 つ。 空
へ ふ
一 タ カイ ミ ソ ラ ニ ヒ ガ ヒ ト ツ
二 と ほ い み そ ら に ひ か ひ と つ
三 ウ ミ ノ ム カフ 一 ニ ヒ ガ ヒ ト ツ

窓 星 灯 高
あ か が い
か と 一 み
か り。 思 つ。 空
へ ば
一 タ カイ ミ ソ ラ ニ ヒ ガ ヒ ト ツ
二 と ほ い み そ ら に ひ か ひ と つ
三 ウ ミ ノ ム カフ 一 ニ ヒ ガ ヒ ト ツ

灯

三五

舟にのりて

$\text{♩} = 120$

舟にのりて

一フネニノリテ カハヲクダル
二ふねにのりて うみをわたる

ユルキナガレキヨキフチセ
かぢはまことただにひとつ

コウヲクダルーリキシノクサニ
とほきゆくーてなみをけたて

ガケノエダニハナモサキテ
きせんゆけどかぜにしらほ

コトリトビテミニワクハ
たかくあげてひいろきなみち

タモカキリカココロタノーシタ
めあてかへずこころただ一しく

タダヒタスラニカハヲクダルカ
ただましぐらにうみをわたるう

ハミヲクダルフルネニノリテ
みをわたるふふねにのりて

二、舟にのりて

一、舟にのりて 川を下る。

ゆるき流 淸き瀧瀨、

小魚ぐり、

岸の草に、崖の枝に、

花も咲きて、小鳥飛びて、

峯にわくは、雲か、霧か。

心樂しく、ただひたすらに

川を下る、川を下る、

舟にのりて。

二、舟にのりて 海を渡る。

舵は誠ただに一つ。

遠き行手、

波を蹴たて 汽船ゆけど、

風に白帆高くあげて、

廣き波路、目あてかへず。

心正しく、ただましぐらに

海を渡る、海を渡る、

舟にのりて、

一三、高嶺の月

一、分けゆく山の
幾つかあれど、やがて見る
月は一つと、うたはれし、
高嶺の月のけだかさよ。

二、潤に満てる人の世に、
わが身を清くふるまひし
代代の聖もおもはるる、
高嶺の月のたふとさよ。

三、浮世の塵にまじるとも、
われらも共につとめつつ、
磨け、心を、うつくしく、
高嶺の月を鏡にて。

高嶺の月

♩ = 96

村時雨

♩ = 92

1 p コノハニクサニサラサラト
2 mp すぎゆくあとをながむれば
スギユクアメヤムラシグレ
こころもいつかあらはれつ
mp ノハラニヤマニムラザトニ
mf のはらもやまもむらさとも
mf ヒハテリナガラツカノマニ p タダサラ
fめざむるばかりつかのまに mp たたすが

一四、村時雨

1. 木の葉に、草に、
さらさらと
過ぎゆく雨や、村時雨。
2. 野原に、山に、村里に、
日は照りながら、東の間に、
たださらさらと そそぎゆく。
サラト ソソギユク
すかと なりにけり
二、過ぎゆくあとを
眺むれば、
心も、いつか洗はれつ。
野原も、山も、村里も、
日が暮るばかり、東の間に、
ただすがすがとなりにけり。

滿洲の野

$\text{♩} = 88$

mf

一ワガイクマソニスミガ
ニわがいくまんのまーすらをが
セイギのなをぞとどめたる

mp

いくさのあとのもんじゅーはひ

四四

f

もほのぼのとあけてゆくみ
わた一すのべのーはて
までもげにやへいわのりさう一きやう
一おもへばけふーのひぞうれしき

滿洲の野

四五

一五、満洲の野

一、わが幾萬のますらをが、

正義のために 戰ひし

戦のあとぞ、満洲は、

陽も 赤赤と沈みゆく。

見渡すかなた、曠漠と

天に連なる 地平線。

思へば、過ぎし

日ぞかなしき。

二、わが幾萬のますらをが、

正義の名をぞ とどめたる

戦のあとの 満洲は、

陽も ほのぼのと明けてゆく。

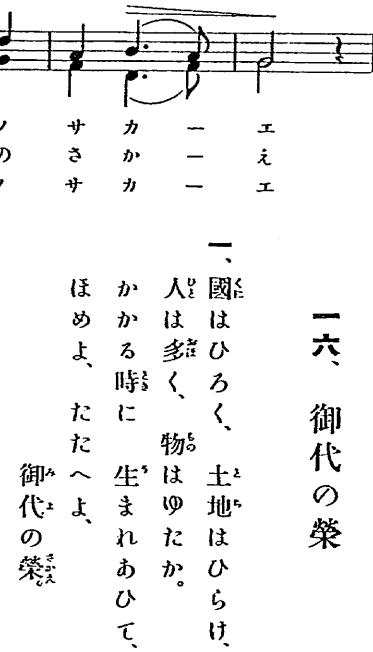
見渡す野邊の はてまでも、

實にや、平和の 理想郷。

思へば、今日の

日ぞうれしき。

一六、御代の榮



御代の榮

ヒュトロミホクニキトソボチナコハヘリヒナモラリチテ
ヒサシトラカハニモオスワホスカクムキモスクノラニハハユマニタモホタモホ
カワノカレブルラルトコチキコカニラマスチレクニアスミヒメテ
クリニハヒトロミホクニキトソボチナコハヘリヒナモラリチテ
ヒサシトラカハニモオスワホスカクムキモスクノラニハハユマニタモホタモホ
カワノカレブルラルトコチキコカニラマスチレクニアスミヒメテ

御代の榮

(二部合唱)

一七、冬來る

一、里の小川の板橋に、
此の頃朝毎霜しげくして、
流も細くなりまさり、
冬來る、冬來る。

二、雜木林の鳥の音も、
雲間をもれ来る
日の光さへ、
さすがに寒き心地して、
冬來る、冬來る。
三、夕白きは、
頂峰に遙けき北山の
我が知らぬ間に
雪こそはやも降りにしか。
冬來る、冬來る。



御 裳 澗 川

p 敬虔に

$\text{♩} = 80$

一 アサギヨメ ミモスソガハニ
 二 ふかみどり こだちがくれに
 三 オホヤシマ クニツハジメノ

カミヂヤマ カゲヲウツシテ
 いやたかく ちぎにかつをぎ
 オホミカミ イツキマツレル

cresc.

ユクミヅノ ナガレ
 かみかきの ひろき
 カミカゼノ イセノ

カラハズスエカケテ
 おほまへおのづから
 ミヤシロフリアフギ

dim. *p* *poco rit.*

スミヅ一マサ一レル
 ふして一ぬか一づく
 ミルモ一タフー一トシ

一八、御裳澗川

一、朝^{アサヒ}清^{シキ}め 御^{ミツ}裳^{ミツ}澗^{ミツカワ}川^{カワ}に、

神路^{ミツロ}山^{ミツヤマ}影^{ミツカガ}を 映^{ミツル}して、

行く水^{ミツ}の 流^{ミツク}かはらず、

末^{ミツ}かけて 澄^{ミツ}みぞまされる。

二、深^{ミツ}みどり 木立^{ミツツキ}がくれに、

いや高^{ミツタカ}く 千木^{ミツキ}に 鏑木^{ミツキ}、

神垣^{ミツカニ}の ひろき大前^{ミツマサ}

おのづから 伏^{ミツル}して額^{ミツカ}づく。

三、大^{ミツ}八^{ミツ}洲^{ミツ} 國^{ミツ}つはじめの

大^{ミツ}神^{ミツジン} 齋^{ミツシ}まつれる、

神風^{ミツカゲ}の 伊勢^{ミツイセ}の御社^{ミツマツコ}

ふり仰^{ミツハシム}ぎ 見^{ミツル}もたふとし。

薩摩守

陸
摩
守

卷之三

一九、薩摩守

雪の行軍

雪の行軍

J = 100

poco rit. (V)

a tempo

ff

一ア カツキノソ
二あ かつきのそ
三ア カツキノソ

ラーハピロククスエケブルユキーノノハラ
ラーハピロククスエケブルユキーノノハラ
ラーハピロククスエケブルユキーノノハラ

mp

(V) *cresc.*

ヒトツラニシリガネノベーテアサトリノカ
あさとでのちからはみちーてふゆのぬもほ
ニホヒタツヤマナミソメーテアサヒコノヒ

五八

雪の行軍

五九

ケルミエズユケーヤイザララララララ
ほにすずしうたへいざららららラ
カリナガルトモヨイザララララララ

ヒトノアトナーキミチヲワ
わかきわれらーのニコニロを
イソゲワレラーノウサギオ

p *trill*

ケバアユミモカロータ
一アユベモカロータ
一アユベモカロータ

二〇、雪の行軍

一、暁の

空はひろく、
末煙る 雪の野原。

一面に 銀展べて、
朝鳥の 翔る見えず。

行けや、いざ、ららららら、
人の跡なき道を分け、
歩も軽く。

二、暁の

空を仰ぎ、
勇ましや、雪の行軍。

朝戸出の 力は満ちて、
冬の威も 頬に涼し。
歌へ、いざ、ららららら、
若き われらのこころをば、
調も軽く。

三、暁の

空の下に、

うつくしや、雪の野山。
にほひ立つ 山脈染めて、
朝日子の 光流る。
友よ、いざ、ららららら、
急げ、われらの兎追ふ
麓も近し。

二、春の訪れ

一、春の來ると いち早く
咲くや、野中の梅の花
そよ吹く風も、花の香の
匂かし。

句

ノーテト
一一一
ホルス ヒユツソ
カケメ
シヌス
一一一
二、すがたやさしき 鶯の、
裏の小蘿に音も高く、
野山の鳥に さきがけて、
春を告げぬ。
三、ほのも芽ぐみし 若草の、
色もさやけく青みつづ、
野原も、山も、うらうらと
霞みそめぬ。

春の訪れ

$\text{♩} = 50$

ハルノキタルトイチハヤ
二すがたやさしきうぐヒスサ
三ホノモメクミシワカクサ
ク一サクヤノナカノウメノハ
の一うらのこやぶにねもたか
ノイロモサヤケクアヲミーツ
ナソヨフクカゼリモハナノカ
のやまのとモハナガ一け
ツノハラモヤマモウラウラ

送別の歌
(独唱及び二部合唱)

I ♩ = 69

II ♩ = 69

ピアノ ♩ = 69
mp

一ユ ク カ ワ ガ ト モ マ ナ ビ ャ ア ト ニ サ サ ラ
二ユ ク カ ワ ガ ト モ マ ナ ビ ャ ア ト ニ サ サ ラ
三ユ ケ ヤ ワ ガ ト モ マ ナ サ ビ キ ャ ク ト ニ サ
一ユ ク カ ワ ガ ト モ マ ナ ビ ャ ア ト ニ サ サ ラ
二ユ ク カ ワ ガ ト モ マ ナ ビ ャ ア ト ニ サ サ ラ
三ユ ケ ヤ ワ ガ ト モ マ ナ サ ビ キ ャ ク ト ニ サ

独唱 ♩

バ バ カ ゲ レ ヨ コ ト リ ノ ゴ ク ノ よ ソ
サ ラ バ カ ゲ レ ヨ コ ト リ ノ ゴ ク ノ よ ソ
サ ラ バ カ ゲ レ ヨ コ ト リ ノ ゴ ク ノ よ ソ
ハ の ミ ア ド リ ハ ナ サ キ カ ニ ホ フ コ
ニ ハ ニ モ エ ハ キ サ マ セ キ キ ス ナ モ
ニ ハ ニ モ エ ハ キ サ マ セ キ キ ス ナ モ
ハ の ノ ミ ア コ ド リ シ ロ ハ キ ツ サ マ セ キ キ ス ナ モ
ニ ハ ニ モ エ ハ キ サ マ セ キ キ ス ナ モ
ニ ハ ニ モ エ ハ キ サ マ セ キ キ ス ナ モ

二二、送別の歌

一、行くか、わが友、學舎あとに。
さらば翔れよ、小鳥の如く。

獨唱 野はみどりに萌え、

花咲き、風にほふ この春に、
霞を越えて 光へ、光へ、希望の光へ。

二、行くか、わが友、學舎あとに。
さらば漕出よ、努力の船を。

獨唱 世の嵐は吼え、

霧巻き、波荒ぶ その海を、

三、行けや、わが友、まさきくあれや。
されど思へよ、泉の如く

獨唱 その心に湧く、

盡きせぬ思出の この窓ぞ、
夢にも通ふ 故里、故里、こころの故里。

合唱

發行所 大日本圖書株式會社

東京市京橋區銀座一丁目五番地

印刷所 共同印刷株式會社

東京市小石川區久堅町百八番地

印刷者 大橋光吉

東京市小石川區久堅町百八番地

不許複製

昭和十年三月三十日發行

昭和十年三月二十七日印刷

定價金拾四錢

高等小學唱歌第一學年男子用

大日本圖書株式會社

代表者

業務取締役 杉山常次郎

東京市京橋區銀座一丁目五番地

發行者

大日本圖書株式會社

著作權者

文部省

古書號 241-

購入 小山書店

K140.2-2-1

235
398
4215

